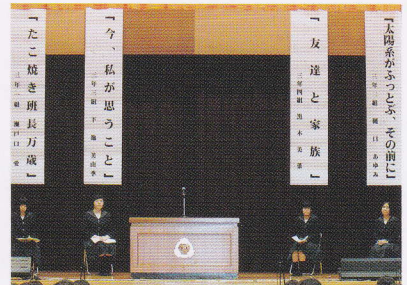


閉校記念文化祭

1日目 (ステージ)



美術部による看板



弁論大会



全校アート



吹奏楽部



ラインダンス



課題研究 浴衣ショー



3年1組 劇



3年2組 ダンス



バンド演奏



3年4組 ダンス



3年3組 劇



舞台に見入る生徒たち



バンド演奏



文化委員長挨拶

閉校記念文化祭 2日目 (西高まつり)



「西高まつり」 入口



会場風景



閉校記念顔パネル



協賛店



販売風景



茶道部



販売風景



販売風景



販売風景



販売風景



会場風景



販売風景



案内所



協賛店



販売風景

旅立ちのことば

生徒会長 山下貴子

卒業式が近づく／同時に西高という一つの歴史も／その幕を閉じようとしている／淋しい 悲しい 嬉しい 切ない／それぞれのいろんな思いが／交錯している中／静かに幕を閉じるのだ／その瞬間は刻一刻と近づく／あっという間に過ぎ去った高校生活／その全てを見守ってくれた西高／ありがとう 西高／今まで見守ってくれて／ありがとう 西高／それぞれの道を歩き出す私達を／また見守っていてね

これは、私たち3年生の一人が書いた詩です。

平成21年4月、桜の美しい春の日に、鹿児島県立鹿児島西高等学校に入学してから3年の月日が経ち、ついに卒業の日を迎えました。そして同時に、鹿児島西高校閉校の時が来ました。

入学する前から私たちは、3年後の閉校のことは知っており、「最後の新生」として入学したはずでした。しかし、頭の中では「卒業と同時に自分たちの学校がなくなってしまう」とわかっていながら、実感がわかずただ毎日を送っていました。

ところが先輩方が卒業していき、在校生が減っていくにつれ、いろいろな場面でつきまとう「最後」という言葉に言いようのない寂しさを感じ、「閉校」という現実が、とても間近に押し寄せ感じてられるようになりました。そして、何気なく過ごしていた一日一日がとても大切なものになりました。永遠に続くものなど何もなく、だからこそ一瞬一瞬が宝物——。この学校で過ごしたからこそ、そんな風に考えられるようになったのだと思います。

私はバスケットボール部に所属していました。マネージャーを含め8人しか部員がおらず、休む人が重なる練習さえできないことも何度ありました。そんな中、卒業した先輩方が来て一緒に練習して下さったり、他校のチームと合同練習することができたりしたことにはとても感謝しています。最後の大会当日には、先輩方や同級生、先生が駆けつけ声援をくださり、本当に嬉しかったです。人数が足りないため試合に出られず悔しい思いをした部活動もあったと思います。ですが、困難を乗り越える強さ、仲間と協力してやり遂げる喜びや達成感、支えてくださる周囲の方々との絆など、得たものはとても大きなものだったのではないのでしょうか。きっと、かけがえのない財産になったことと思います。

今年度の学校行事は、例年とは違うところが数多くありました。体育祭では、学年別での対抗戦ができないため、四つのクラスを二つに分け、青組と黄組の色別での対決になりました。たった一学年での開催で、果たして盛り上がるのか、寂しい体育祭になってしまうのではないかと不安がありました。ですが、応援団になった人たちは、母校最後の体育祭を成功させるため、自分の進路決定に向けてとても忙しい夏休みに毎日のように練習を重ね、体育祭当日には、心を一つにして素晴らしいダンスや演舞を見せてくれ、大きな感動を与えてくれました。何より嬉しかったのは、学校の隣にあるあたご保育園の子どもたちや先生方が一緒にお遊戯をしてくれたり、また綱引き「西高秋の陣」に、数えきれないほどたくさんの卒業生や保護者・来賓の方々が参加して下さったりして、私たちの体育祭を盛り上げて下さったことです。最後に皆で肩を組んで歌った校歌、涙とともに味わった充実感、仲間とのつながりのあたたかさは、一生、忘れることはありません。

文化祭では、一日目に舞台発表と展示、二日目には「西高まつり」と題し、いろいろな商品の販売を行いました。

まず一日目の舞台発表。スタッフ不足を補うため、文化委員も、例年の3倍の人数で裏方の仕事に奔走しました。苦勞して皆で創り上げた劇やダンス。全校生徒の手形で描き上げ、咲かせた大きな桜。懐かしい写真で高校生活を振り返りながら歌った全校合唱。オープニングや幕間にも工夫を凝らし、いつも以上に盛大に開催できました。

そして二日目のバザー。初めての試みでうまくできるのか全く予想ができず、開催が決まった時は、お客さんが来なかったらどうしようとも考えました。しかしちらしを配ったり、貼り紙をしたりといういろいろな準備をして、少しずつ形になっていくうちに、次第にそんな気持ちも小さくなっていき、絶対成功させようという思いが強くなりました。当日はあいにくの雨になりましたが、大勢の方が来てくださいま

した。地域の方々も協力して下さり無事成功させることができました。

文化祭や体育祭だけでなく様々な行事で、生徒一人一人の役割が大きくなり、仕事が増えました。大変なことも皆きつとあったと思います。しかしその分、一人一人が参加し一生懸命に取り組んで、今までよりも充実した、思い出に残る行事にすることができたと思います。

私にとって、この3年間は、様々なことを改めて考える機会がたくさんあり、貴重な体験ができた3年間でした。閉校を目前にして寂しく感じることも、不足を感じることも全くなかったわけではありません。ですが、それ以上に、充実した3年間を過ごすことができたのは先生方のおかげだと思っています。先生方の人数も減り、仕事の量も増えていたと思いますが、生徒一人一人に真剣に向き合い、大事にしてくださいました。先生方の温かく厳しいご指導のおかげで、私たちは学問的な知識だけでなく、人間としての生き方も学び、大きく成長することができました。そして、地域の方々にもお世話になりました。5年前から行っている柴門公園の清掃活動にも協力して下さり、最後まで続けることができました。先生方、地域の方々、本当にありがとうございました。

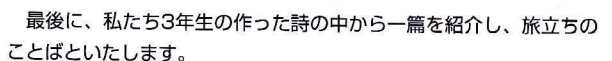
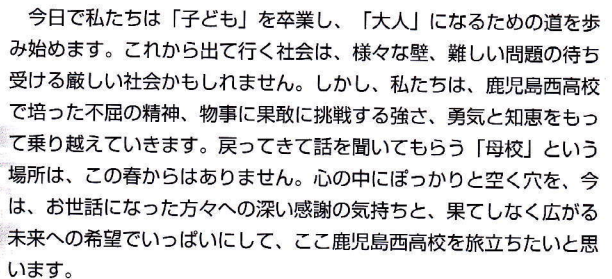
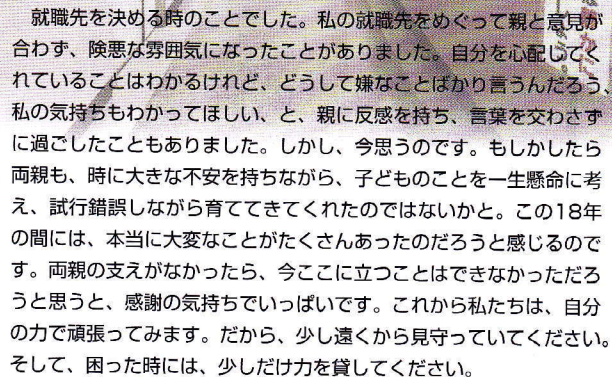
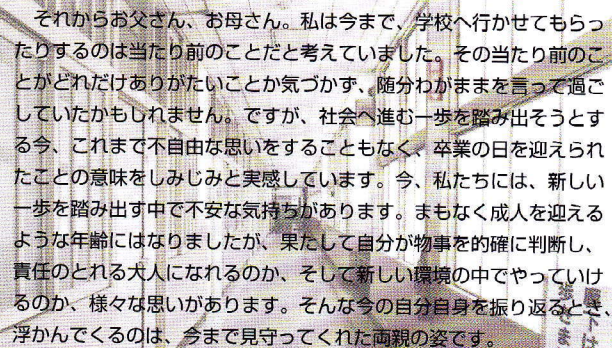
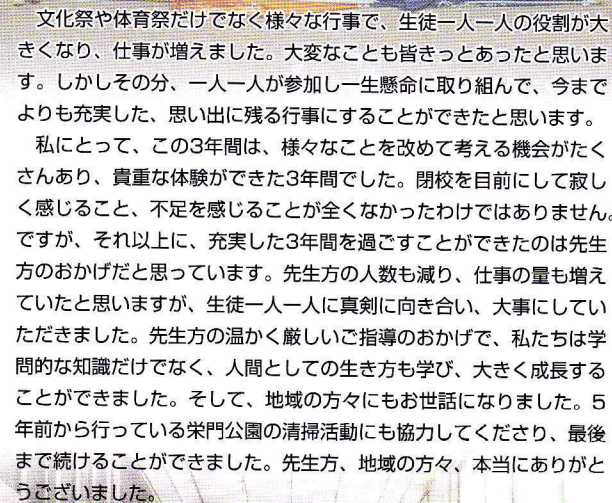
それからお父さん、お母さん。私は今まで、学校へ行かせてもらったりするのは当たり前のことだと考えていました。その当たり前のことがどれだけありがたいことが気づかず、随分わがままを言って過ごしていたかもしれません。ですが、社会へ進む一歩を踏み出そうとする今、これまで不自由な思いをすることもなく、卒業の日を迎えられたことの意味をしみじみと実感しています。今、私たちには、新しい一歩を踏み出す中で不安な気持ちがあります。まもなく成人を迎えるような年齢にはなりましたが、果たして自分が物事を的確に判断し、責任のとれる大人になれるのか、そして新しい環境の中でやっていけるのか、様々な思いがあります。そんな今の自分自身を振り返るとき、浮かんでくるのは、今まで見守ってくれた両親の姿です。

就職先を決める時のことでした。私の就職先をめぐる親と意見が合わず、険悪な雰囲気になったことがありました。自分を心配してくれていることはわかるけれど、どうして嫌なことばかり言うんだろう、私の気持ちもわかってほしい、と、親に反感を持ち、言葉を交わさずに過ごしたこともありました。しかし、今思うのです。もしかしたら両親も、時に大きな不安を持ちながら、子どものことを一生懸命に考え、試行錯誤しながら育ててきてくれたのではないかと。この18年の間には、本当に大変なことがたくさんあったのだらうと感じるので、両親の支えがなかったら、今ここに立つことはできなかったらうと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。これから私たちは、自分の力で頑張ってみます。だから、少し遠くから見守っていてください。そして、困った時には、少しだけ力を貸してください。

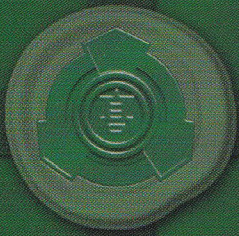
今日で私たちは「子ども」を卒業し、「大人」になるための道を歩み始めます。これから出て行く社会は、様々な壁、難しい問題の待ち受ける厳しい社会かもしれません。しかし、私たちは、鹿児島西高校で培った不屈の精神、物事に果敢に挑戦する強さ、勇気と知恵をもって乗り越えていきます。戻ってきて話を聞いてもらう「母校」という場所は、この春からはありません。心の中にぽっかりと空く穴を、今は、お世話になった方々への深い感謝の気持ちと、果てしなく広がる未来への希望でいっぱいにして、ここ鹿児島西高校を旅立ちたいと思います。

最後に、私たち3年生の作った詩の中から一篇を紹介し、旅立ちのことばといたします。

個性豊かな生徒／厳しさと優しさをもつ先生／沢山の形のピースで／鹿児島西高校というパズルが出来る／楽しくて笑っている色／感動して泣いている色／怒っている色／色とりどりのピースで／鹿児島西高校というパズルが出来る／緊張した入学式／一致団結した体育祭・文化祭／楽しんだ修学旅行／思い出が光となり／鹿児島西高校というパズルが出来る／鹿児島西高校のピースは／バラバラになるけれど／心にあるパズルは存在する 永遠に／西高校よありがとう／そして さようなら



第2部 学校沿革



上空から見た校舎、学校周辺の風景（開設当時）

